



子供を駄目にする『川崎市子どもの権利に関する条例』を廃止せよ!



学力の低下は、就職力、生活力、そして国力の低下!
就職氷河期は更につづく!

新卒者の就職難

「大学を卒業しても、なかなか就職先が見つからない」という新卒者の悲鳴がつづいている。このところ、異常なほどの就職難である。この背景には日本経済の低迷による長引く不況があるが、ただそれだけではない。企業が採用枠を抑制しているのは一時的な不景気の為だけではないことを指摘しておきたい。

いま、日本企業の国内採用は抑制されつつも海外採用は増えている。企業が海外採用を拡大している背景には、日本の「人材力」そのものの低下がある。

例えばユニクロでは、来年度は600人の新規採用を計画しているが、そのうち半分となる300人は海外採用としている。パナソニックでも、1400人の採用を計画しているが、うち1100人が海外採用だという。これは語学力の問題だけでなく、総合的な学力を含めた人材力の問題があるという。

学力の低下に歯止めをかけなければならない

アメリカのハーバード大学への日本人留学生が増えていることは周知のとおりであるが、今年の一学年のうち、**韓国人は200人、中国人は300人**であるのに対し、**日本人はわずか1人**である。

また、国を挙げて人材育成に力を注いでいる韓国では、TOEICのスコアが800点以上でなければ一流大学に入ることはできない。あのサムスンでは、920点以上でなければ課長以上の昇進は不可能であるという。その一方で日本を代表するソニーは650点だ。

パナソニックは国内採用を抑制していることを初めて公表したが、同様のことを多くの企業が世論の反発を避けるために隠している。日本を代表するグローバル企業は、国内採用を抑制しつつ、海外採用を拡大することにより企業戦力を整えようとしているのだ。

このように、日本と外国との間で人材格差が明らかになっている。言うまでもなく、国家を挙げて学力の向上を図っていかなければならない。

今年のハーバード大学への留学生人数比較



日本の子供が危ない

一方、川崎市では、『川崎市子どもの権利に関する条例』という誠に由々しき条例が、平成13年に施行されて久しい。

例えばこの条例は、子供に「ありのままの自分でいる権利」を保障している。しかし、子供がいつまでも「ありのままの自分」でいては、人材力の内外格差は広がるばかりである。このようなことでは、次世代がろくな就職もできず、生活さえ成り立たない。

子供を駄目にする条例は即刻廃止すべきである。残念ながら、この条例の廃止を唱える川崎市議会議員は私以外にはいない。恐ろしいことに、**他都市でもこの種の条例が制定されはじめている**。このことから日本の地方行政と地方議会のレベルの低さが伺える。

このままだと日本人は、自分の国でありながら、留学生だった中国人や韓国人の管理職の下で単純作業をするしかないような惨めな国民になってしまう。そんな人材貧困が皆さんの子供たち、孫たちの未来であっていいのでしょうか。

皆さんはどのようにお考えですか?

以下、『川崎市子どもの権利に関する条例』の問題点を指摘します。皆様のご意見をお待ちしております。

※裏面に続きます

三宅隆介プロフィール

昭和46年3月23日生まれ。
大東文化大学文学部 卒業。ユアサ商事株式会社を経て、
松沢成文衆議院議員(現神奈川県知事) 秘書。
平成15年4月 川崎市議会議員 初当選。
平成19年4月 2期目当選。
川崎市多摩区中野島在住。

政治信条：小善は大悪に似たり 大善は非情に似たり



川崎市は平成13年4月から、

『**川崎市子どもの権利に関する条例**』を施行しています。

簡単に述べると、この条例は、子供に「遊ぶ権利」「プライバシーの権利」「自分で決める権利」などを認め、第三者機関（川崎市人権オンブスパーソン）によってそれらの「権利」を保障しようというものです。

この条例が制定された背景には、平成元年に批准された国際条約『**児童の権利に関する条約**』があります。しかし、この国際条約の目的と性質は、川崎市がつくった条例のそれとは全く異なります。

そもそも、この国際条約は、発展途上国における子供の環境改善を主たる目的としています。例えば発展途上国には、兵隊として戦わされている少年や人身売買させられている少女などのほか、今なお貧困や飢餓に苦しんでいる子供たちが大勢います。この国際条約はそうした子供たちを対象にしています。

しかし…

『**川崎市子どもの権利に関する条例**』では…

発展途上国ではない日本において、「ありのままの自分でいる権利」や「自分で決める権利」など、怪しげな権利を子供たちに保障しています。

例えば 「ありのままの自分でいる権利」として

- ①秘密が侵されないこと
- ②自分に関する情報が不当に収集されないこと
- ③安心できる場所で自分を休ませ、及び余暇をもつこと

**ご都合的な「子供の権利」
が謳われています。**

親が子供の携帯電話を見ると条例違反

例えば、②の自分に関する情報が不当に収集されない、というのは、子供の携帯電話を親が勝手にみてはならない、ということも含まれています。教育上、親は子供のプライバシーに干渉しなければならないわけですが、**川崎市においては子供の携帯電話を見た親は条例違反者**ということになります。

子供を躱けた教員が権利侵害者にされた

また、平成15年には次のような事例もありました。
ある川崎市内の小学校教員が、授業妨害を繰り返している低学年の児童に対し、担任教員として学級秩序を維持するために指導を行いました。具体的には、授業中に立ち歩いている児童の腕をつかんで座らせようとした、ということです。これをうけ、その児童の保護者は「川崎市人権オンブスパーソン」に対して権利侵害の救済申し立てを行いました。その結果、**その教員は権利侵害者として、その児童は被権利侵害者として認定**されました。更にその教員は児童の保護者に謝罪したうえで、行き過ぎた指導について反省を促すための研修を受けさせられたということです。

子供に「ありのままの自分でいる権利」は無い

繰り返しますが、国際条約である『**児童の権利条約**』は、アフリカやアジアなどの発展途上国において、今なお飢餓や貧困に苦しみ、人身売買されたり、売春を強制されたり、**まともな医療や教育を受けられない児童を対象としたもの**です。決して、授業妨害を繰り返す子供の「わがままな権利」を保障するものではありません。

そもそも、国家や家庭が行う教育や躱は、次世代を担う子供たちに正しい「型」を教えることが目的です。その子供たちに「**ありのままの自分でいる権利**」を認めてしまえば、教育や躱は成立しません。子供は「**ありのまま**」でいてはならないのです。

川崎市及び条例推進者の主張

- 1 「子どもはかけがえのない価値を持った一人の人間として尊重されるべきだ」
- 2 「子どもは周りの人から愛され、信頼されることによって自信を持ち、豊かに自分らしく育つことができる」
- 3 「子どもは、自分が大切にされることによって、他人も大切にすることを学び、お互いの権利を尊重することを学ぶ」

しかし、これらは間違った教育論です。

私は次のように反論します。

三宅隆介の主張

1 に対して…

尊重される人間にするのが教育である。

そもそも、「価値」の定義ができていないからこんな戯言が言える。価値は創るものであって、初めから在るものではない。この条例をつくった人たちは、自分が「かけがえのない価値」を持っていると本当に思っているのだろうか。仮に自分が死んでも社会にほとんど影響を与えないはずだ。私を含めて、世の大人の殆どがそうである。オンリーワンの人間など何人もいない。**自分ができないことを子供に押し付けるな。**

2 に対して…

真っ赤な嘘である。

愛、信頼、自分、自信、自分らしくの定義ができていないからこういう間違った表現となる。

「愛」の目的は守ることである。ペット扱いや甘やかしは愛とは言わない。子供は親に愛され守られると安定する。むしろ、安定は進歩に欠かせない。子供は甘やかされると大人に強さを見出すことが出来ない。強くないものは自分を守ってくれないことを子供は本能的に知っている。親が弱いと子供の目は釣り上がっていく。

「信頼」されるのは結果である。本人の能力があるから任せても大丈夫、というのが信頼である。その能力が無いのに信頼できるはずがない。信頼は創るものである。

「自分」とは創り上げた正しい理性（精神の技術）のことをいう。正しい理性とは、自分の行動によって獲得した価値（技術）といってもいい。子供は創っている最中であるから、おそまつな自分しか持っていない。だからこそ教育がある。

「自信」というのは、正しい理性を創り上げ、それが正しく優れていることを実証した後で確立される。これも創るものである。

「自分らしく」といのも、正しく安定した理性（自分）を創り上げれば、豊かに自分らしく行動できるようになる。それを個性という。個性もまた創るものである。

以上のように、「愛」以外はすべてこれから創るものである。初めから在るものではない。「人間は神が創ったがゆえに既に備わっている」とする創造論は教育の否定だ。

3 に対して…

**他人を大切に扱うのは、
自分を進歩させた結果である。**

まだ大したことの無い自分を大切にされたら、その子供の進歩はそこで止まってしまふ。子供のことは時系列で考えなければならない。**大切にすべきは子供の将来であって、今ではない。**今を大切にしたら進歩は止まってしまい、正しい理性は構築されない。結果、子供にとって不幸となる。

文責者：川崎市議会議員 三宅隆介
お問い合わせは民主党川崎市議会議員団まで Tel.044-200-3355